

## ぎふ地域子育て創生モデル事業

### 障がいをもつ子供達の未来に向けて

当法人では、今年度、岐阜県の「ぎふ地域子育て創生モデル事業」を受託することが出来、実施している。

平成10年より取り組みを始めた重度障害者の在宅就業支援の取り組みの中で、特別支援教育の中で補いきれない、「幼児期からの経験の積重ねより培われる、社会性や感性をどう育成していくか」という大きな壁に当たり、障がい者の就労を考えた時、教育（含、職業リハビリテーション）をはじめ、あらゆる分野との連携の必要性を痛切に感じると同時に、平成8年より行っている相談支援の取り組みの中で、障がい児をもつ親より、「家族をはじめ介護者の同伴支援がないと外出が困難な身体及び知的障害(重複)児童・生徒にとって、人との触れ合い/コミュニケーションの機会をもつことは著しく困難な状況」にあり、「障がい児をもつ全ての父兄が、口に出すか出さないかの違いこそあれ、歳を取り面倒が看られなくなった後の我が子の将来に対する不安」という、とても大きな悩みと課題を投げかけられた。

これらの事実直面し、テクノロジーと医療技術の進歩により、これまで障害とされてきた一部の領域が障害でなくなりつつある今、障害を持って生まれても、同年代の子供達と同じようなものの考え方や、社会性、能力を身につけることは、その子供達が将来自立し、自分にあった生活環境の確保を考え・臨む上において大変重要なことである。親にとっても、我が子が社会の中で多くの人の支援と関わりを持ち、固有の自立の道を確保できることへの確証、不安の軽減に繋がり、日々の生活の上で精神的なゆとりが生まれ、それまで以上に、わが子に接し、将来像について幅広く考える機会が増えるのではないかと考え、当事者の立場より、私達が現在把握している限りの知識や生活のノウハウと、全国の先進事例等の情報提供を行い、触れてもらう中で、家族を含む生活の質（QOL）を高め、可能性を大きく広げることが出来ればと願い、「重い障害をもつ幼児・児童ならびに父兄に対する QOL 向上のための体験教室・研修会開催事業」に取り組んでいる。

これまでに、「QOLの追求と未来への期待」をテーマにセミナーを開催すると同時に、家族以外の人との関わりを出来る限り多くもってもらう様に心がけ、体験の場も開催している。

年度内にセミナーを2回、家族以外の人と本音で話し合う体験の場の開催も予定している。

戸惑いと不安の中、模索状態で始めた取り組みも、回を重ねるごとに、参加してくれる子供達の意欲的な姿勢と、探求心に輝く目と笑顔に励まされ、確かな手応えを感じると同時に、目指したことが間違いでなかった確信と、今後の取り組みへの大きな指標をもらった気がしている。

今後は、こうした事業の更なる継続と支援が、一般的な子育ての枠にとらわれることなく、社会全体としての理解と支援の求められる障がい児の分野に置いてこそ必要であり、個々の意志や性格に合わせたキメ細やかな支援のあり方と、それに関わる人材の育成をも含めた新たな施策、教育システムの確立をのぞむとともに、大いに期待するものである。



昨年12月開催のセミナー



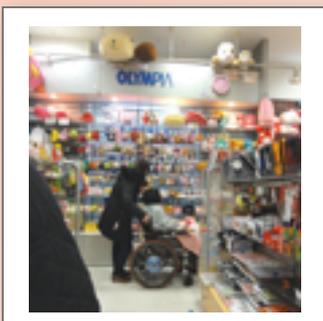
写真①



写真②



写真③



写真④

- ※写真① ・楽器が使えなくてもi-pad を利用し、音と遊び演奏にチャレンジ  
・自助具を利用して、
- ※写真② 1) Dカメラで写した写真を取り込み年賀状やX'masカードを作成
- ※写真③ 2) 泡立て機やジューサーを動かし、X'mas ケーキ作りに挑戦
- ※写真④ ・家族以外の人と一緒に街に出て、お年玉でお買い物に挑戦